# 緑陰図書

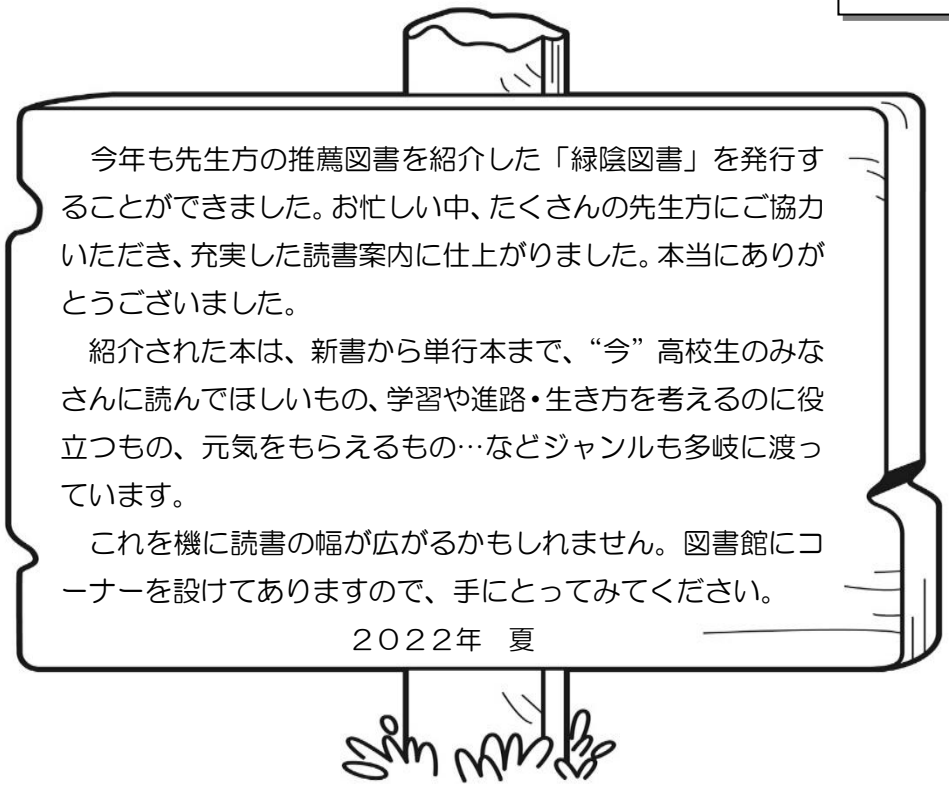
# 令和４年度

| | 目　　次　　（五十音順） | 頁 |
|---|---|---|
| 吉井靖明校長先生 | 『天国までの百マイル』 | ４ |
| 髙野裕史教頭先生 | 『世界で一番美しい病気』 | ４ |
| 齋藤恵美事務長 | 『世界を変えた１５の食べ物』 | ４ |
| 飯嶋聖先生 | 『マンガ　老荘の思想』 | ５ |
| 飯嶋肇先生 | 『日本人のための日本語文法入門』 | ５ |
| 飯野優一先生 | 『ネイティブなら 12 歳までに覚える 80 パターンで英語が止まらない!』 | ６ |
| 池永真孝先生 | 『赤い指』 | ６ |
| 石田諭先生 | 『身体にきく哲学』 | ７ |
| | 『キャラクター精神分析』 | ７ |
| | 『人間の解剖はサルの解剖のための鍵である』 | ８ |
| | 『国家と移民：外国人労働者と日本の未来』 | ８ |
| 井上直子先生 | 『サクリファイス（Sacrifice)』 | ９ |
| 今成光利先生 | 『斜陽』 | ９ |
| 遠藤幸夫先生 | 『解きたくなる数学』 | １０ |
| 大谷聡先生 | 『ここで差がつく！スポーツで結果を出す８１の習慣』 | １１ |
| 岡田準先生 | 『ファン・ゴッホ　日本の夢に懸けた画家』 | １１ |
| 籠島大佳先生 | 『海にはワニがいる』 | １１ |
| 金井飛鳥先生 | 『大人も知らない？ふしぎ現象事典』 | １２ |
| 唐澤涼太さん | 『夢をかなえるゾウ ４』 | １２ |
| 工藤洋平先生 | 『自分では気づかない、ココロの盲点』 | １２ |
| 栗原桃香先生 | 『学びを結果に変えるアウトプット大全』 | １３ |
| 小林由里子先生 | 『その農地、私が買います 高橋さん家の次女の乱』 | １３ |
| 斎藤真里奈先生 | 『楽しくわかる万葉集：図解雑学』 | １３ |
| 櫻井恵美子先生 | 『十二国記』 | １４ |
| 澤田德彦先生 | 『泣き虫ピエロの結婚式』 | １４ |
| 塩原久美先生 | 『ぼくは勉強ができない』 | １４ |
| 下田彩子さん | 『東京奇譚集』 | １５ |
| 下田紀史先生 | 『短歌と俳句の五十番勝負』 | １５ |
| | 『愛×数学×短歌』 | １６ |

目　　次　　（五十音順）　　頁


| | | |
|---|---|---|
| 高野潤一先生 | 『未来の年表２：人口減少日本であなたに起きること』 | １６ |
| 髙橋舞司書 | 『たそがれ大食堂』 | １６ |
| 角田将也先生 | 『眠れなくなる宇宙のはなし』 | １７ |
| 登坂健志先生 | 『新しい科学論：「事実」は理論をたおせるか』 | １７ |
| 中島英一先生 | 『ポアンカレ予想を解いた数学者』 | １８ |
| 中村輝美先生 | 『きっと明日はいい日になる』 | １８ |
| 林寛二先生 | 『アルジャーノンに花束を』 | １９ |
| 榛澤麗先生 | 『さよならドビュッシー』 | １９ |
| 平山圭一先生 | 『青が散る』 | ２０ |
| 深井靖士先生 | 『破船』 | ２０ |
| 星野貴紀先生 | 『アヒルと鴨のコインロッカー』 | ２０ |
| 丸山靖史先生 | 『中原中也詩集』 | ２１ |
| 山田武男先生 | 『君の膵臓をたべたい』 | ２２ |
| 吉永朋央先生 | 『90 歳人気ブロガー「さっちゃん」のまた、あした。』 | ２２ |


表紙　鎌田牧詩
　　宇佐美雪乃



今年も先生方の推薦図書を紹介した「緑陰図書」を発行することができました。お忙しい中、たくさんの先生方にご協力いただき、充実した読書案内に仕上がりました。本当にありがとうございました。

紹介された本は、新書から単行本まで、“今”高校生のみなさんに読んでほしいもの、学習や進路・生き方を考えるのに役立つもの、元気をもらえるもの…などジャンルも多岐に渡っています。

これを機に読書の幅が広がるかもしれません。図書館にコーナーを設けてありますので、手にとってみてください。

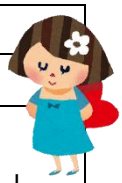
２０２２年　夏

**吉井靖明　校長先生**

**『 天国までの百マイル 』　浅田次郎 著**

バブル崩壊により事業に失敗した安男は自己破産し、同級生の助けを得て職に就いている。妻と別れ双子の子供のための養育費は高額。仕事はうまくいかず借金を抱え、恋人マリに支えられながら荒んだ生活を送っていた。ある日医者から呼ばれ、四人の子供を女手ひとつで育ててくれた母が、重い心臓病で重篤であることを知る。裕福になった兄姉は積極的に関わろうとしないなか、名医がいる百マイル(160km)離れた病院へオンボロ車で送り届ける決意をする。母を送る道中、出会う人々のやさしさに、そして母や恋人の無私の愛にふれ、少しずつ変わっていく。ダメ人間再生のお話。「ヤッちゃん…」とやさしく息子の名を呼ぶ母の姿に、何とも言えない温かさ、優しさが伝わってくる。(私も幼い頃ヤッちゃんと呼ばれていました)私にとって閉塞感に苛まれた時、リセットするために時々読み返す本です。もやもやした気持ちが（涙とともに）洗い流され、穏やかな気持ちを取り戻させてくれる一冊です。

**高野裕史　教頭先生**



**『 世界で一番美しい病気 』　中島らも 著**

世界で一番美しい病気・・・それは「恋」である。

「恋は病気の一種だ。治療法はない。ただしそれは世界中で一番美しい病気だ。」

中島らもの刹那的な生き方とロマンチックな恋愛哲学がたくさん詰まった恋愛エッセイ集。こんなオシャレな大人になりたいという人は是非読んでみてください。

**齋藤恵美　事務長**

**『 世界を変えた１５の食べ物 』　テレサ・ベネイテス 著**

どんな食べ物が世界を変えたと思いますか。もしも、この食べ物が無ければ、世の中にはどんな事が起きていたのでしょう。また、この食べ物を知らなかったら、さぞかし味気ない人生だったでしょう。

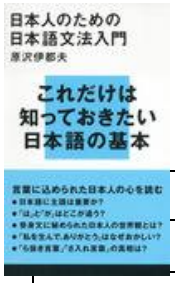
とても綺麗な色の本です。図書館にあるので、是非、手に取ってみてください。

**飯嶋 聖　先生（地歴公民）**

**『 マンガ　老荘の思想 』　野末陳平 監修**

中国の春秋戦国時代。戦乱の世においては、多くの人が他からの争奪と自身の繁栄の実現に明け暮れていました。そんな時代の真っ只中にあって、周囲に流されず、心穏やかに、自由に生きることを説いた老子と荘子という人がいました。彼らの思想はとてもユニークで、戦乱にも似た現世を生きている我々にとっても、十分に生きる指針となり得るものです。

「最近疲れているなぁ」とか「もう少し肩の力を抜いて、気楽に生きていきたいなぁ」という思いをもっている人は、是非一読してみてください。きっと、新たな世界が目の前に広がるはずです！




**飯嶋 肇　先生（国語）**

**『 日本人のための日本語文法入門 』　原沢伊都夫 著**

国語の教員をしている方の多くが学生時代、文学の世界にどっぷりとつかっている時に、私は日本語の文法について研究をしていました。「日本語の文法」などというと、ほとんどの人から「中学校で暗記したアレでしょ」とか「動詞、形容詞、〇〇活用‥なんて、既に日本語を使えるのに何でわざわざ覚えるんだ」とか、「高校に入って、『古典語の文法』に変わり一層煩わしい」等、不満の声が聞こえてきそうです。実際、国語科の教員のなかでも文法を専門にする人は少なく、肩身のせまい思いをしています。この文章を読んでいる皆さんが、毎日、当たり前に用いている日本語のきまりに興味を持ち、ポジティブに学ぶきっかけとなったなら嬉しいと考えて、この新書を紹介します。

学校で教えられている文法は、古典語との連続が意識された「日本語を母語として使う人のための文法（＝学校文法）」の考え方に基づいています。一方で、現代の日本語を世界にたくさんある言語の一つと捉え、合理的かつ客観的にその姿を分析する文法の考え方があります。これを「日本語文法」と呼びます。外国の人が日本語を理解し、使えるようになるためにはこうした日本語の考え方が欠かせませんし、わたしたちのような母語話者にも、日本語にかかわる今まで知らなかった新鮮な発見を与えてくれます。

この本は、将来は言語学（日本語学）を専門的に学びたい、日本語を改めて見つめなおしたいと考える生徒にはぴったりの入門書です。いままでとは違う角度から日本語のすがたを捉え、言語感覚を磨く夏休みにしてみてはいかがでしょうか。

**飯野優一　先生（英語）**

**『ネイティブなら 12 歳までに覚える 80 パターンで英語が止まらない!』　塚本亮 著**

「今日はカレーが食べたいな。」を英語で表現したい時に何と言いますか？ただし、want to を使わない表現で考えてみましょう。答えは、「I feel like eating curry and rice.」となります。「I feel like ～ing.　～したい気分です。」を使います。この表現は、本によると、ネイティブなら８歳までに覚える表現とされています。また、want to~との違いについても紹介されています。この本では、ネイティブの子供が覚える順で様々な表現が紹介されているので、自然と英会話表現が身につきます。では、「もっと一生懸命勉強すれば良かった。」を英語で言うとどうなるでしょうか？空欄を考えてみてください。答えは本を是非読んでみてください。「I (　　) (　　) studied harder.」

**池永真孝　先生（教科）**

**『 赤い指 』　東野圭吾 著**

皆さんは映画化やドラマ化をされた原作について、先に映画やドラマを見る派ですか、それとも原作を読む派ですか…、という問いかけをしている私の答えは、どちらでもありません。その両方です。映画やドラマをきっかけに原作を読むようになった作家もいますし、好きな作家が原作の映画やドラマは、できる限り原作を先に読んでから見たいと思っています（がっかりすることもありますが…）。

東野圭吾さんの作品は、福山雅治さんが主演したドラマ『ガリレオ』がきっかけでした。ドラマを見てから「ガリレオシリーズ」の原作から入り、その後は文庫化された作品をほぼすべて読んでいます。表題の「赤い指」は 10 作品ある「加賀恭一郎シリーズ」の第７作です。本作品は初めの方で犯人が明かされるので、それを考える楽しみはありません。内容は『ありふれた家族の物語』とだけ書いておきます。そして最後まで読めば、『愛情とは何か』を改めて考えさせられることになるでしょう。

なお、前述の通り本作品は「加賀恭一郎シリーズ」の第７作であり、主人公のことも作品が進むにつれて少しずつ明らかになっていきますので、第１作の「卒業」から順番に読むことをお薦めします。そして、よければシリーズ最終作の「祈りの幕が下りる時」まで読破してみてください。それと、このシリーズは「赤い指」を含めた５作品が阿部寛さん主演で映像化されていますので、併せてお薦めしておきます。

**石田 諭　先生（国語）**

**『 身体にきく哲学 』　黒崎政男 著**

教科書に掲載されている芥川龍之介『羅生門』にせよ、中島敦『山月記』にせよ、夏目漱石『こころ』にせよ、これまで私たちは、自己の内面へ目を向けてきた。「我思う故に我あり」―デカルトの心身二元論以来、私たちは「私とは何か」を考えるとき、私の「心」に重点を置いてきた。ところが現代の情報化社会は、例えばスマホの指紋や顔認証などがそうであるように、「私」が「私であること」を「私」の身体的特徴から判断する。ここでは「私」の確認に、私の「心」は全く関係ない。それだけではない。スマホの通話記録、クレジットカードやＡＴＭの使用記録、街中の監視カメラなど、私たちの行動は、日々記録されデータベース化されている。何らかの意図でそれらを寄せ集めれば、驚くほど膨大で詳細な情報が「私」として立ち上がる。これはおそらく犯罪捜査などには応用されている。私の実存がデータベース化された私となるなら、データベース化された世界（仮想世界）も１つの現実であるという仮説も成り立つ。本書は、私たちが生きる情報化社会は、これまでになく「私」ひいては「現実世界」のあり方さえも問われている時代であるということを教えてくれる。そして何より、この「私」の捉え方が、映画「マトリックス」シリーズの前提になっていることに気づいたあなたは、この映画が 100 倍おもしろくなる。映画と併せて読みたい本である。

**石田 諭　先生（国語）**

**『 キャラクター精神分析 』　斎藤環 著**

私たちは「自らが取り替えのきかない固有の存在であること」を、どれだけ信じられるだろうか？　そのような自分は、自己の中に矛盾も孕んで複雑で、自分がどんな存在なのか語り尽くせない（把握することもできない）し、他人も理解しにくい。けれども「キャラ」は自分からも他人からも相互に理解しやすく、コミュニケーションの中でまた堅固に作られていく。コミュニケーション偏重主義の現代社会において要請されたのが「キャラ」だ。「自らが取り替えのきかない固有の存在であること」を信じられなくなった私たちが、かろうじて自意識の同一性と連続性をつなぎとめるもの、それが「キャラ」だ。したがって私たちは例えば、周囲からネガティブなキャラ認定（インキャラ、非モテキャラなど）をされたとしても、そうしたキャラを積極的に引き受け、演じていく。精神科医でもある著者が、その臨床での考察の視点として注目したのが「キャラ化」という現象だ。文庫本にもなっていて、安価で、読みやすい１冊である。

**石田 諭　先生（国語）**

**『 人間の解剖はサルの解剖のための鍵である 』　吉川浩満　著**

「トロッコ問題」というのをご存じだろうか。「線路を走っているトロッコが制御不能になった。このままでは前方で作業中の５人が轢き殺されてしまう。けれど転轍機（ポイント）でトロッコの向きを切り替えれば、その先にいる一人の犠牲ですむ。あなたはトロッコの向きを切り替えるべきか？」というものだ。ベストセラーになったマイケル・サンデル『これからの正義の話をしよう』（早川書房）で有名になったものだ。民主主義の基本理念である「功利主義」をめぐる命題だ。本書は、著者が『現代思想』（青土社）などに寄稿したテクストを集めたもので、それぞれはさほど長くないが、その内容は多岐にわたる。通読すれば著者の関心のありようが「人間とは何か」というところに行き着くこともわかるが、「拾い読み」してもそれぞれが十分おもしろい。特に最大多数の最大幸福を志向する「功利主義」についての考察は秀逸である。人工知能による自動運転が実現しつつある現在、自動運転車の AI は衝突が避けられない状況にも遭遇するであろうが、そうなれば何らかの判断もしなければならなくなる（例えば、赤ちゃんと老人、ドクターとホームレス、100 万人の命と 10 万人の命のどちらを選ぶだろう？）。前述した「トロッコ問題」―功利主義をめぐる命題は、そうした自動運転車の AI を設計する際に、我々がどのような判断基準を持つように設計すべきなのかという、かなり現実的、実際的な議論も提起している。「国家のための戦争」についても同じだろう。

**石田 諭　先生（国語）**

**『 国家と移民：外国人労働者と日本の未来 』　鳥井一平 著**

コンビニエンスストアで働く外国人を見るようになって久しい。彼らのほとんどは、流暢に日本語を話し、礼儀正しい。すがすがしさすら感じたりする。少子高齢化が進み労働者人口が減少する中で、こうした光景はこれからもっともっと日常的になるだろう。「共生」という言葉が脳裏に浮かぶ。けれど私は、彼らについて何も知らない。どこの国から？　何のために？　どこで日本語を習い、どんな生活をしている？　どんな労働条件で働いている？　彼らを迎え入れる制度は整っている？　などなど、知らないことばかりだ。調べていく中で、ここには目を背けてはいけない問題が潜在しているように感じている。本書は、その問題への入門書である。新書で読みやすい。

**井上直子先生（英語）**

『 サクリファイス(Sacrifice) 』　近藤史恵 著

数年前まで友人とクリスマスプレゼントとして、お互い５千円分の本を送り合っていました。自分の好みで本を選ぶと、いつも同じようなテイストになってしまうので、友人から来る本は新鮮な喜びを与えてくれました。まさにこの本は、自分では絶対に選ばなかった本でしたが、一気に引き込まれてしまいました。ストーリーのメインは自転車ロードレースの話です。そこに様々な人間関係や葛藤、少しミステリー要素もあり…。

多くを語らない寡黙でストイックなアスリートに非常に魅力を感じます。

**今成光利　先生（国語）**

**『 斜陽 』 太宰治 著**

男子校ではふつう席替えをしない。高校３年の一年間、私の隣には美術部のＩ君(イマナリではない)が座っていて、国語であろうと数学であろうと、とにかくどんな授業の時間中も、担当の先生や黒板をまったく意に介することなく、一日中ノートに落書きをしていた。その落書きは幾何学模様であったり、怪しげな人形のようなものであったりいろいろだったが、最終的にはどの模様も絵も、Ｂ３やＢ４と思しき濃い鉛筆で次々と何かが上書きされて、やがてページのほとんどが真っ黒に近い状態になってゆく。それを、私はたびたび横目で見ていた。

ある日の英語の授業。冒頭で、担当の先生は黒板にこう書いた。

**「朝、食堂でスウプを一さじ、すっと吸ってお母さまが、「あ」と幽(かす)かな叫び声をお挙げになった」**　そしてこれを英語にしてみろと私たちに命じた。

「あ」の部分をどう英語にすればいいんだろう、などと私が考え、他のクラスメイトたちも困った顔をしたり、わかんねえよなこんなの、などとぼそぼそ話したりする中、私の肩を軽くたたいたＩ君は、「これは太宰治の『斜陽』だよね」と言って、またすぐに落書きを続けた。あっという間のことだったけれど、Ｉ君が太宰治の『斜陽』を読んでいて、その冒頭に置かれたこの文言を覚えていたことと、「『斜陽』だよね」の「ね」が、私には小さくない衝撃だった。国語の授業で『富嶽百景』を読んだのと、タイトルにつられて『人間失格』を読んだ以外に太宰作品の読書経験がなかった私は、それが悔しくてその日の帰り道、書店に寄って新潮文庫の『斜陽』を買った。当時の私に、『斜陽』は難しい小説だっ

た。わからなかった。ただ、あの頃、もう一度読み直してみようとは思い立たなかったけれど、進学先のアパートへはその文庫本を持って移り住んだ。

大学へ入ってわりとすぐの頃、教養課程の講義で上田秋成(江戸時代の文学者)が取り上げられ、その中で教授は、彼の作品に描かれた蛇のことを話題にした。『斜陽』にも、蛇はあることの象徴的な存在として登場する。そのあとの昼休み、学食で通称１００円ランチ(ライス＋味噌汁＋ふりかけの小袋)を食べながら、先ほどの講義を一緒に受けていた友人が、「文学の講義で蛇の話を聞くと太宰治の『斜陽』を思い出すよね」と私に言った。また、「ね」である。彼の専攻は日本文学ではなく数学だ。

アパートへ戻り、私は『斜陽』を読んだ。高校のあの時以来、二度目である。夕食を食べに出るのも忘れて、夢中になっていた。だからといって、それで『斜陽』が「わかった」わけではない。ただ、私の内側のあちこちが、打たれた跡でいっぱいになったという実感はものすごくあった。結果として、何が人を後押しするのかなんていつもわからない。私は太宰を卒業論文のテーマに選んで大学を卒業した。

**Mother uttered a faint cry. She was eating soup in the dining-room.**

「The Setting Sun」(『斜陽』英訳版／翻訳 E.G.Seidensticker)

**遠藤幸夫　先生（数学）**

**『 解きたくなる数学 』　　佐藤雅彦ほか　著**

いきなりですが、みなさんは数学が好きですか？　「いや～、数学って難しいし、何の役に立つかわからないからあまり好きじゃない」っていう人も結構いるんじゃないかな。本書は、そんなあなたに特にお勧めの本です。

この本、数学の本なのに、出てくるのは美味しそうなケーキやチーズやチョコレートの写真です。でも、それらを使って身につくのは、『論理の組み立て』＋『抽象化』＋『新しい考え方の枠組み』＋『思考のジャンプ』です。

著者たちは、誰もが一度は観たことがあるであろう、Ｅテレ『ピタゴラスイッチ』の制作メンバーです。その『ピタゴラスイッチ』制作メンバーが、これまでにない数学問題集を作ったのが本書です。面白くないわけがないですよね。「ひと目で問題の意味が分かる、ひと目で問題を解きたくなる、それがこの本でやりたいこと」と前書きにあるとおり、ひと目で心を奪われる問題ばかりです。数学が苦手な人も得意な人も、魅力的な写真とグラフィックで表現された２３題に、夢中になること請け合いです。

**大谷 聡　先生（理科）**

**『 ここで差がつく！スポーツで結果を出す８１の習慣 』　高橋宏文 著**

「どんなにネガティブな状況でも明るくいられるか？」これは、結果を出す習慣の一つになる。本書は、スポーツで結果を出す習慣となっているが、この習慣は、学業や仕事、趣味でも結果を出す習慣であると思う。

本書の８１の習慣を知り、その習慣を身に付け実践し、お互い、それぞれの分野で、よりよい結果を出し続けていこう。

**岡田 準　先生（国語）**

**『 ファン・ゴッホ　日本の夢に懸けた画家 』　圀府寺 司（こうでら つかさ） 著**

３年生の現代文の授業で『檸檬』を扱いました。その本文に、ポスト印象派であるセザンヌやゴッホの絵を踏まえている描写があるのではという話をしました。授業においては、セザンヌよりゴッホのほうが知られていましたね（どちらも大画家です）。

本書は、そのゴッホの生涯を紹介する本です。ゴッホの活躍した時期ごとに章立てし、主要作品をカラーで紹介しながら、数多く残されているゴッホの手紙を軸に、ゴッホの人生を浮かびあがらせています。ヨーロッパでジャポニズムが席捲した時期に、ゴッホも日本の浮世絵に大きく影響され、それが画風に現れているのも興味深いですし、37 年という短い生涯の中で、夥しい作品を残したゴッホの思想、感情が伝わってくる本です。

ちょっとした絵画鑑賞にもなるので、是非手にとってみてください。

**籠島大佳　先生（保健体育）**

**『 海にはワニがいる 』　ファビオ・ジェーダ　著**

タリバーン政権下のアフガニスタン。日本では当たり前の生活とは全く異なります。ごく普通の国民の生活の安全が何の保証もされない。自由を求めてたったひとりでいくつもの国境を越えた少年の過酷な旅に、大きな衝撃を受けました。ぜひ、彼と同じ１０代のうちに読んでみてください。

**金井飛鳥　先生（保健体育）**

**『 大人も知らない？ふしぎ現象事典 』　「ふしぎ現象」研究会 編**

皆さん一人一人に名前があるように、世の中の現象にも名前があるのです。

「ゲシュタルト崩壊」「青木まりこ現象」「イヤーワーム」・・・こんな名前を聞いても何のこっちゃと思うかもしれませんが、絶対に皆さんも体験したことあるはずです。勉強に疲れたとき、クスッと笑って「あるある～！！（笑）」と思い、何なら誰かに話してみませんか？

**唐澤涼太　さん（事務）**

**『 夢をかなえるゾウ４ 』　水野敬也 著**

余命 3 ヶ月の宣告をうけた主人公が残された時間で、「家族に 1 億円の財産を残す」、「後悔の無いように生きる」という目標を達成するために、ガネーシャという神様の指導を受けながら課題に取り組んでいくというストーリーです。限りある人生での夢との関わり方、死に対する考え方が物語形式でわかりやすく書かれており、自分の人生について考えさせられる内容でした。最後は衝撃の展開が待っており、物語としても、とても面白い本です。是非読んでみてください。

**工藤洋平　先生（理科）**

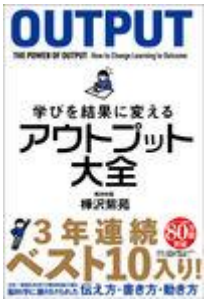
**『 自分では気づかない、ココロの盲点 』　池谷裕二 著**

「デパートの試食販売コーナーでジャムを売りました。次のどちらのブースの売り上げが多かったでしょうか。①6 種類のジャムを販売するブース、②24 種類のジャムを販売するブース」。この本は、気鋭の脳研究者である著者が、「認知バイアス」と呼ばれる脳がもつ思考・判断のクセをドリル風に解説した、いわば「脳の取扱説明書」です。みなさんも「直感」で判断したことが、「判断ミス」につながってしまった経験があるでしょう。これは脳のクセ、すなわち認知バイアスによるものです。この本を読んで、脳の傾向と対策を知りましょう。冒頭の問題の答えは本書を読んで確認してみてください。

**栗原桃香　先生（実習助手）**

**『 学びを結果に変えるアウトプット大全 』　樺沢紫苑 著**

勉強の仕方が分からない、勉強しているのにいまいち結果につながらない、という人はぜひこの本を読んでみてください。きっと自分の勉強方法を見直すきっかけになると思います。かくいう私も、この本を読んで勉強に前向きに取り組めるようになりました。どのような勉強をすれば記憶の定着につながるのか等を精神科医の視点から解説しています。内容もシンプルで分かりやすいと思うので、ぜひ手に取ってみてください。




**小林 由里子　先生（養護教諭）**

**『 その農地、私が買います　高橋さん家の次女の乱 』　高橋久美子 著**

近年、住宅の屋根だけではなく、近所の空き地や畑、山の斜面など、至る所に太陽光パネルが設置されているのを目にします。この本の著者は、遠く離れた東京で、実家の父親が田んぼを全部太陽光パネル業者に売ってしまったと聞き、茫然自失。何とか思い直すよう直談判しますが、地域の皆で決めたことだからと、相手にされません。ならば、自分がその農地を全部まとめて買い取ろうと決心するのですが、お金があれば買えるというものではなく、そこには様々な問題が立ちはだかります。やらぬ後悔より、やって後悔の精神で突き進んでいく著者の姿に刺激を受けつつも、最後に落ちが・・・。今の日本が抱える、農業や食の問題について考えてみませんか。

**斎藤 真里奈　先生（音楽）**

**『 楽しくわかる万葉集：図解雑学 』　中西進 監修**

今年の夏、コーラス部がコンクールで演奏するのは西村朗作曲「妻への挽歌」です。歌詞は、柿本人麻呂が亡くなった妻に対する泣き叫ぶような想いを歌ったもので、『万葉集』に収録されています。これを機に『万葉集』について勉強してみようと思い、まず読んでみたのがこの本です。

この本では『万葉集』の編纂時期や、特徴、それぞれのテーマの歌が、イラスト等でわかりやすく掲載されており、『万葉集』初心者でも１冊読み終えることができました。加えて、当時の生活や死生観、環境、政治、気候な

どなど、歌を通して見えてくることについても記載されており、とても興味深く、「妻への挽歌」への向き合い方を深めることができました。

歌を通して、当時の人の思いや情景を心に描けるのはとても素敵なことですね！

そして、音楽を通して、その思いを伝えられるのはなんて幸せなことでしょう♪

**櫻井 恵美子　先生（数学）**

**『 十二国記（シリーズ） 』　小野不由美 著**

神仙や妖魔の存在する中国風の異世界を舞台にしたファンタジー。十二の国では、それぞれの国の麒麟が天の意思を受けて王を選び、王は天の定めた決まりに従って国を統治します。選ぶ者、選ばれる者、選ばれなかった者、その他様々な立場の人々が、過酷な運命の下で必死に生きる姿を描いた超大作です（まだ完結していません）。その壮大な世界観に圧倒されるとともに、生きる勇気をもらえます。ぜひどっぷりと浸ってみてください。

**澤田徳彦　先生（地歴・公民）**

**『 泣き虫ピエロの結婚式 』　望月美由紀 著**

かつて映画化されたことのある作品ですので、知っている人、すでに読んだ人もいると思いますが、私自身が感動した作品です。

女性のピエロがうつ病を克服しながら結婚までたどり着くが、その新婚生活は・・・。

こんなに強い女性がいるのかと驚き、本当の幸せとは何なのかということを考えさせられました。しかも主人公が作者で、実話だというのですからびっくりです。

落ち込んでいるとき、勇気をもらいたいときの助けになるかも。

**塩原久美　先生（国語）**

**『 ぼくは勉強ができない 』　山田詠美 著**

自分は高校生の頃、あり余るエネルギーを抱えながら、「平凡なものではない何かになりたい！」と、常にもがいていた。しかし、現実的にはなかなかそういう訳にもいか

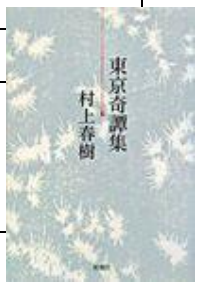
ず、結局は流されて学校生活を送る自分がいる。毎日学校に通って、必死に良い成績をとることを目指さないといけない自分がいる。やりたいことは、もっと他にあるはずなのに……。

この本の主人公の高校生・秀美君は、「勉強ができない」。間違っても、優等生ではない。でも、頭は良いし、考え方が「カッコイイ」。そして、秀美君の周りの大人たちもすごく「カッコイイ」。だからなのだろう、読んでいてとても爽快な気分になれるし、自らの身に置き換えて、色々なことを考えるきっかけにもなる。

息詰まりそうな毎日をがんばっている渋女生に、息抜きの一冊としてお勧めしたい。

**下田彩子さん（事務）**

**『 東京奇譚集 』　村上春樹 著**




どうしてこんなことがおこるのだろう・・・
見慣れた世界を一変させる、不思議な力をもつものたち・・・
村上春樹の不可思議な世界を描いた短編集です。

**下田紀史　先生（美術）**

**『 短歌と俳句の五十番勝負 』　穂村弘、堀本裕樹 著**

テレビを見る機会が少ない中にあってよく見るのが“プレバト”。夏井いつきさんと梅沢富美男さんとのやりとりも面白いけれど芸能人タレントの作品を夏井先生がズバズバと批評・添削する番組は、年寄りの趣味みたいに思われていた俳句をごく身近な存在にしてくれた功績は大きいのではないだろうか。

1998 年から始まった俳句甲子園も高校生と俳句を強く結びつけ広めてきた伝統イベント。10 年前私が渋女に来た頃は渋女も俳句甲子園に出場していたけれど…。

〇その他推薦図書

・『B 面の夏』　黛まどか 著

・『俳句甲子園：俳句甲子園公式作品集』　俳句甲子園 OB・OG 会 編

**下田紀史　先生（美術）**

**『 愛×数学×短歌 』　横山明日希 著**

短歌の世界では 1987 年の俵万智さんの『サラダ記念日』が大ベストセラーに、歌集がベストセラーになるという、かつてありえない出来事は社会現象としても取り上げられた。

以降短歌が若い人にもごく身近に、若いつくり手も続々と登場し活況を呈している。

私自身は本の情報誌「ダ・ヴィンチ」の読者投稿欄“短歌ください”のコーナーが好き。へぇーすごい、自由な表現・発想力、こんなのもありか、う～ん、なるほど、いまどきの人ってすごいんだとつくづく思わせてくれる。そしてなんか自分でもつくれるんじゃないかとそんな気にも…。80 の手習い始めるか。

〇その他推薦図書

・『短歌ください　１・２』　穂村弘

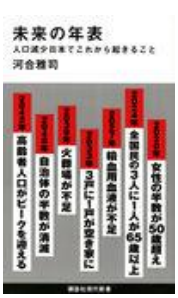
・『ドラえもん短歌』　枡野浩一

・『チョコレート語訳　みだれ髪　１・２』　俵万智

**高野潤一　先生（地理歴史）**

**『 未来の年表２：人口減少日本であなたに起きること 』　河合雅司 著**

２０２１年度に生まれた子供の数は８１万人ほど。現在の高校生の皆さん方が生まれた時は１１０万人弱の出生数でした。この１０数年間で出生数が３０万人も減っている、この現実は大きく報道されていません。この本はそんな少子化が激しく進む日本の未来で現実に起こりそうな事が書かれています。これからの社会を主体的に生きていくために、是非とも一読してほしい本です。



**高橋 舞　先生（司書）**

**『 たそがれ大食堂 』　坂井希久子 著**

人は、悩まずにはいられない生き物だと思います。私もどうしよう、困ったな…と頭を抱えることばかりです。ただ、“神様は、乗り越えられる試練しか与えない“といい

ます。私はこのとおりだと思っていて、どんなに困難な課題にも真摯に向き合うことで乗り越えられると信じています。また、なにより課題に向かっているときはなんとも楽しく感じます。

この本にも、次から次へと課題が出てきます。ある女性マネージャーが、飲食業勤務が初めてにも関わらず、売上低迷の危機にある百貨店最上階の大食堂で奮闘する、という物語です。昭和レトロを売りにメニューをリニューアルしていくのですが、どれも食べたくなること間違いなし！特に、あるスイーツが食べたくなり、私は洋食屋さんへ足を運んでしまいました…。本から飛び出してきたのかと思うほどそっくりな見た目だったので、本の中とつながったようですごく幸せな気持ちになりました。外の世界に出かけたくなる１冊です。

**角田将也　先生（理科）**

**『 眠れなくなる宇宙のはなし 』　佐藤勝彦 著**

宇宙に思いを馳せたくなったら、はじめにこの本を読むのが良いのかなと思います。天文学の歴史から最新の宇宙論まで分かりやすい言葉と面白い絵で語られていて、宇宙初心者にもお勧めの本です。古くからの「人々の宇宙観」や「宇宙論」を紐解いていく内容になっていますが、知識がなくても読みやすい本になっています。とてもインフレーション理論を提唱した筆者のものとは思えないほど説明がやさしくなっています。天文学＝哲学であった古代ギリシャを一度この目で見てみたいと思いました。

**登坂健志　先生（理科）**

**『 新しい科学論：「事実」は理論をたおせるか 』　村上陽一郎 著**

科学（science）は絶対的に揺るがない客観的な「事実」を語るように思われがちですが、実際は宗教的な側面など、観察する側の知識や考え方に基づき、観察者が「見たいように見て」います。例えば、つい最近までのヨーロッパにおいて、物質は「火・風・水・土」の四つの元素からできているとされていました。現代のみなさんには可笑しく感じるでしょうが、当時の科学者たちは当時の考え方に則って大真面目に論を展開しています。「科学」がどのようにして世に認められているか、その過程を考えてみてください。

**中島英一　先生（数学）**

**『 ポアンカレ予想を解いた数学者 』　ドナル・オシア 著**

「単連結な 3 次元閉多様体は 3 次元球面 S3 に同相である」ポアンカレ予想は、1904 年にフランスの数学者アンリ・ポアンカレによって提出された。この美しい予想は私が学生時代にあこがれた問題であり、私が生きている間には証明されないと信じていた。なぜなら現代数学を代表する分野、位相幾何を独力で創りあげた天才数学者たちがそれに立ち向かっては敗れ、いつしか１００万ドルが掛けられる難題とみなされていたからである。しかし経験と知識は蓄積され、１００年が経ち、微分幾何学の分野の「リッチ・フロー」を駆使して、謎めいた数学者ペレルマンが大胆不敵な解答を示した。本書では、ポアンカレ予想の解決はペレルマンひとりの業績ではなく、連綿と続く数学研究のなせる業であるという観点から、位相幾何学を歴史的側面から追いながら、平易な語り口でわかりやすく説明している。数学に興味ある人はぜひ読んでみてください。

**中村輝美　先生（数学）**

**『 きっと明日はいい日になる 』　田口久人 著**

今年度は３学年に所属しているので、受験勉強で忙しい３年生でも簡単に読めて、行き詰まったときにヒントがもらえるような本を紹介します。

今年の５月、些細なことから気分が落ち込んだことがありました。そんな時に書店に行き、「読むだけで前向きになる」という言葉に惹かれ手にした本です。パラパラとランダムにページをめくって読んでいくと、その時の自分の琴線に触れる言葉に出会い、少しだけ前向きになれました。皆さんも、勉強や人間関係に疲れた時、何をやっても上手くいかない時に読んでみてください。元気をもらえるかもしれません。

**林 寛二　先生（地歴）**

**『 アルジャーノンに花束を 』　ダニエル・キイス 著**

今年になって読んだ本でとにかくお薦めは、逢坂冬馬著『同志少女よ敵を撃て』、今村翔吾著『賽王の楯』、米澤穂信著『黒牢城』の３冊です。でも今回紹介するのは、やはり最近本棚から引っ張り出して再読した昔の本です。1982 年第 8 版と奥付にあるので、40 年以上も前の作品ですね。生まれながらの知的障害を持つ 32 歳のチャーリーは、パン屋で働きながら夜学に通っています。彼に頭を良くしてあげるという科学者の申し出があり、頭が良くなれば友達ができると信じているチャーリーは、危険な実験の被験者となって手術を受けます。同じ実験を白ネズミのアルジャーノンも受けていました。やがてＩＱが 185 の超天才となったチャーリーは、自我が強くなり、知識欲も旺盛で人々を驚かします。アルジャーノンも天才ネズミとなりますが、やがて急速に知能が後退していきます。そして、チャーリーも…。ＳＦ小説の傑作として当時賞を受賞し話題になったということですが、人間とは何かを考えさせられる一冊です。ぜひ高校生の皆さんに読んでほしいと思います。

**榛澤 麗　先生（英語）**

**『 さよならドビュッシー 』　中山七里 著**

今回紹介する本は、私が中学生の娘に紹介されて読んだ、中山七里さんの「さよならドビュッシー」です。「このミステリーがすごい！」大賞を受賞している本で、ジャンルで言えば音楽×ミステリー×青春でしょうか。私は「のだめカンタービレ」が大好きなのですが、この作者もそれに着想を得てこの本を書いたそうです。漫画やドラマでなくても描写がわかりやすく、「ちょっとクラシックでも」なんて思いながら読みたくなること間違いなしです。音楽が好きな人はその描写の美しさも楽しめますが、ミステリーとしてもとても面白い本です。事件は一度終息するかに思えますが、さすがこのミス大賞！と思えるような大どんでん返しが待っているので、最後まで気を抜かずに一気に読んでください！

**平山圭一　先生（英語）**

**『 青が散る 』　宮本輝 著**

「新設大学のテニス部員椎名遼平と彼をめくる男友達、女友達。(中略)テニスコートに白球を追う若い群像に描きテニスというスポーツを初めて文学作品にした感動の長編小説」この本の裏表紙に書かれた解説をそのまま書いたものである。一見するとテニス小説かと思われるが、大学へ進学してみたが、人生に対して特に目標もなくなんとなく生活していた大学生が成長していく様を描いている。自分の人生と合わせて読んでいたのを思い出す作品である。

**深井靖士　先生（保健体育）**

**『 破船 』　吉村昭 著**

主人公は九歳の少年。小さな貧しい漁村で、奉公に行った父の代わりに、厳しい母と幼い弟妹を養うべく暮らしている。この寒村では漁と塩作りの他、お船様の到来を祈る伝統がある。お船様には米や砂糖や食器等の贅沢品が積まれていることが多いのだ。村人達は船をおびき寄せるために、海岸で夜を徹して塩を焼く。これは村ぐるみの犯罪だ。積み荷を奪うためなら殺人をも厭わない。しかし、積み荷は米とは限らなかった...。追い詰められた人間の怖さ、災厄を生きのびる強さ、物語の最後には僅かながらも希望が見える。

本書は 40 年も前に発刊されたが、2022 年本屋大賞『発掘部門』の「超発掘本！」に選ばれました。物語に潜む《恐怖》は全く色褪せていません。是非ご一読を！

**星野貴紀　先生（化学）**

**『 アヒルと鴨のコインロッカー 』　伊坂幸太郎　著**

伊坂作品の中でも、最も好きな作品です。以下は公式な本の紹介です。

『引っ越してきたアパートで出会ったのは、悪魔めいた印象の長身の青年。初対面だというのに、彼はいきなり「一緒に本屋を襲わないか」と持ちかけてきた。彼の標的は……たった１冊の広辞苑！？ そんなおかしな話に乗る気などなかったのに、なぜか僕は決行の夜、

モデルガンを手に書店の裏口に立ってしまったのだ! 清冽な余韻を残す傑作ミステリ。』

なぜ、強盗してまで広辞苑を奪わなければならないのか。読み進める中で、感じる微妙な違和感と、一見つながりのないような話が、最後にすべて繋がったときの爽快感がたまりません。結末をみなさんがどう感じたか、ぜひ、語り合ってみたいものです。

**丸山靖史　先生（国語）**

**『 中原中也詩集 』　中原中也 著**

受験勉強にいそしむ３年生たちの姿を見て、懐かしく自分自身の高校時代を思い出す。私は、高１の授業の中で出会った「汚れつちまつた悲しみに・・・」の詩をきっかけに、中也にのめりこんだ時期がある。もちろん青春にありがちな感傷からだが、当時私は、自分の机の前に黒のソフト帽をかぶった中也の写真を置いて、本当に中原中也になろうと思っていた。

「愛する人が死んだ時には／奉仕の気持ちに、なることなんです」（「春日狂想」）と、失恋の後は柄にもなくボランティアにも励んでみた。学生時代には、帰省で信越線磯部駅に降り立つたびに「これが私の故里（ふるさと）だ／さやかに風も吹いてゐる」（「帰郷」）なんてキザなセリフをつぶやいてもみた。そして、すべては「ゆあーん　ゆよーん　ゆやゆよん」（「サーカス」）のサーカス小屋の一夜の夢だった。

私の中原中也病は、まさに喪った初恋のようなもの。あの感性は、もはや戻らない。中原中也は青春と同義語。やはり詩とは若者のものだと思う。３年生諸君、勉強の合間にちょっとページをめくってみて！

| 山田武男　先生（英語） |
| --- |
| **『 君の膵臓をたべたい 』　住野よる 著** |
| 数年前読むより先に、妻と映画を見ました。非常に印象に残る話だったので、その後本を買って読みました。人と交わることの苦手な「僕」があることがきっかけで心を開き始め、人と関わることの大切さ、喜びに気づきながらも同時に痛みを知る切なさに心動きます。自分を認めてくれる人がいる幸せにも気付かせてくれました。勉強の合間に気持ちよく読める（泣ける）本だと思います。 |

| 吉永朋央　先生（数学） |
| --- |
| **『 90 歳人気ブロガー「さっちゃん」のまた、あした。 』　堀江幸子 著** |
| 堀江幸子さんは、80 歳でパソコンを学び始め、84 歳でブログ「さっちゃんのお気楽ブログ」を開設。毎回自分の描いた絵とともにブログを投稿していました。<br>80 歳から新しいことに挑戦しようと思えるなんて、すごいと思いませんか？正直、自分なら 80 歳になって今更新しいこと始めようなんて思えないと思います。でもさっちゃんは常に新しいことに興味を持ち、挑戦することを続けました。ちなみに絵を描き始めたのは 70 歳のときだそうです。<br>この本を読んで、人はいつでも学びたいという気持ちがあれば、学ぶことのできる生き物であることを実感しました。また、さっちゃんのブログの内容は、とても率直で癒やされます。<br>残念ながら、堀江幸子さんは 2016 年に亡くなられてしまいましたが、最後まで自分の人生を全うし、またみんなに笑顔を届けてくれました。<br>ちょっとした心の癒やしに読んでみてほしいと思います。 |

# 夏季休業中の開館日について

| 月 | 日 | 曜日 | 開館日 |
|---|---|---|---|
| 7 | 21 | 木 | ○ |
| | 22 | 金 | ○ |
| | 23 | 土 | |
| | 24 | 日 | |
| | 25 | 月 | ○ |
| | 26 | 火 | ○ |
| | 27 | 水 | ○ |
| | 28 | 木 | ○ |
| | 29 | 金 | ○ |
| | 30 | 土 | |
| | 31 | 日 | |
| 8 | 1 | 月 | |
| | 2 | 火 | ○ |
| | 3 | 水 | ○ |
| | 4 | 木 | ○ |
| | 5 | 金 | ○ |
| | 6 | 土 | |
| | 7 | 日 | |

| 月 | 日 | 曜日 | 開館日 |
|---|---|---|---|
| 8 | 8 | 月 | ○ |
| | 9 | 火 | |
| | 10 | 水 | |
| | 11 | 木 | |
| | 12 | 金 | |
| | 13 | 土 | |
| | 14 | 日 | |
| | 15 | 月 | |
| | 16 | 火 | |
| | 17 | 水 | ○ |
| | 18 | 木 | ○ |
| | 19 | 金 | ○ |
| | 20 | 土 | |
| | 21 | 日 | |
| | 22 | 月 | ○ |
| | 23 | 火 | ○ |
| | 24 | 水 | ○ |
| | 25 | 木 | ○ |
| | 26 | 金 | ○ |

## 開館時間　9:00～16:00

**利用上の注意**

○ 入退館時に手指を消毒する
○ マスクを着用
○ 読書や自習で机を使う場合は、６人掛け閲覧机は向かい合わせにならないよう間を空けて２人で使用
　個人用机はひとつ置きに使用
　紙の貼ってある席には座らない
○ 図書館内は原則として飲食禁止
　ただし、ふたのできる飲み物（ペットボトル・水筒）に限りOK！